

性が討論されたが、特定の注意事項を前述のガイドライン中に記載することで過塩素酸の使用は認められた。

今後新たに活動を開始する作業グループは、次の 5 件である。

- (i) 原子吸光法による全カルシウム定量方法 (コンピーナー: カナダ)
- (ii) 無炎 (電熱気化) 原子吸光法 (コンピーナー: イタリア)
- (iii) 原子吸光法によるクロム定量方法 (コンピーナー: 日本)
- (iv) 遊離炭素定量方法 (コンピーナー: フランス)
- (v) 原子吸光法による合金鋼及び銑鉄中の全アルミニウム定量方法 (コンピーナー: アメリカ)

なお、共同実験結果を解析する際の手順と表現につい

て ISO 5725 の準用の統一をはかるため、統計処理のガイドランスを作成することになり、日本とオーストラリアで特設グループを設置することになった。

以上、CSM の副所長 Dr. S. MANESCHI を議長として 5 日間正味 25 時間にわたって熱心な討議を行い、7 件の規格素案及び 1 件の SCI 内文書 (原子吸光法装置基準ガイドライン) の審議を終了し、新たに 5 件の規格素案を作ることになった。この成果は TC17/SCI 始まって以来最大のものであり、第 1 回会議から出席しているイギリス代表から、日本幹事国の適確な活動と日本代表のバックアップに対して絶大な賛辞が与えられた。最後に、ホスト役を果たしてくれた CSM に対して感謝する。次回は 1988 年オーストラリアで開催される。

## コ ラ ム

### コンピューターは神様です?

近年、コンピューター技術の発展は目覚ましいものがあり、特に「考えるコンピューター」として「第 5 世代コンピューター」、「人工知能」「知識工学」とか急速に発展してきている。実用化の面で遠い将来の話とを考えていたが、実際に鉄鋼業においても新聞によれば「H 形鋼などの大形工場の油圧装置の故障診断システムに採用され、どんな複雑な故障原因もわずか 5 分前後で発見でき、専門家の判断と食い違う確率は 10%以内と低い。」と伝えている。このようにコンピューターの「考える技術」が着々と実用化に入っている。この技術の中には専門家の考えのすじ道 (知識) をコンピューターに移しかえて、いわゆる専門家の代

行をする道具としてエキスパートシステムと称しているようである。

このようにエキスパートシステムが進んでくると専門家が現存する場合は、本システムと専門家が併行して判断することもでき問題ないが、専門家がリタイアなり配転されてきた場合には、机上でコンピューターとのみ、にらめっこをすることになり、いわゆる机上の空論になつたり、「コンピューターは神様です」式に人間本来の思考能力を失ってしまわないだろうか。

しかしながら、我が優秀なる鉄鋼マンは、この点もうまく解決し、杞憂に過ぎなくなることを信じている。

(三菱製鋼株式会社宇都宮製作所 望月俊男)